

大崎町 協力隊 通信

vol.6

『砂場の中の学び』



運動会シーズンが終わると、風が秋の気配を感じさせてくれるようになりました。

『ああ、また冬に近づいたな』と、食欲の秋にどっぷりと浸かり、冬眠する動物たちかのごとく体に蓄えている河瀬です。

さて、学習支援員として小学校で勤務させていただいて約半年が過ぎました。お昼休みには、子どもたちが「せんせい!一緒に遊びましょう!」と声を掛けてくれます。さまざまな遊びを一緒にするのですが、最近は低・中学年の間でブームとなっている砂場へとよく誘われます。山を作ってトンネルを作ったり、穴を掘って水を流したりと、砂遊びの流儀はいつの時代も変わらないようで、安心しました。

まずは数か所穴を掘り、水を溜めて池を作ります。そしてその池をつないで水が流れるようにし、川を作ります。ですが、なかなか水が流れていきません。

「どうしたらこっちの池からあっちの池に水が流れると思う?」と尋ねると、「こっちをもっと掘らないと流れてこない!もっと深く掘るぞ!」

と高低差を考えて掘り出しました。また、水を勢いよく砂場に流すとせっかく作ったトンネルや山が崩れてしまいます。

「崩れないようにこっちからそっと入れよう。」と水を入れる位置を調整して、砂の壁が壊れないように水を注いでいきます。しかし、砂が水を吸収するので、水を一定量継続して注ぎ続けなければなりません。

小さなダム工事・河川工事を、小さな職人たちが「ああでもない、こうでもない。」と言いながら協力して作り上げていきます。なにも机上での読み書きだけが学習ではないようです。毎日の遊びや生活の中に、生きる学びがあるのだと思います。

子どもたちへの『授業』はできないけれど、『日常』から共に学ぶことはできます。

『今日はどんな遊びに誘ってくれるかな?』と美味しい給食をいただきながらひそかに楽しみにしています。



地域おこし協力隊
河瀬 史奈

9月末まで菱田小でお世話になっていました。(現在は野方小)

最後の日、子どもたちから手作りの花束やカード、お手紙をもらい、心の温かさに感激しました!

